

市長との対話集会開催記録

団体名	北名古屋民主商工会	実施日	令和6年11月13日（水）
実施場所	北名古屋市コミュニティセンター会議室1	参加人数	7名

【主な内容】

- ・西春駅前商店街の活性化について
- ・事業者への補助について
- ・歩道橋の老朽化や道路雑草の対応について
- ・国民健康保険証について



【対話内容（抜粋）】



参加者

地域の小売店・飲食店が減少し続けている。西春駅周辺もシャッター商店街になっている。このままでは、地域の活性化は望めない。北名古屋市として、この状態をどのように考えているか。

人が訪れて、わくわくするような場所がないといけないと思う。織田信長が開いた楽市楽座のように、規制を取っ払って、人を集め、それにより、お金、情報が落ちる。さらに、相乗効果で人が集まるような仕組みができれば良いと思っています。刻々と変わる社会状況に対応していくためには、行政主体ではなく、皆さんと「ともに進める。」が必要となります。商工会青年部 OB の人たちが中心となって企画する駅前イルミネーションがいい例だと思います。



市長



参加者

北名古屋市は、国の地方創生臨時交付金をクーポン券事業に使用しました。私たちは、クーポン券事業のような間接的補助ではなく、地元業者を直接支援し、税金として還元される。その地域でお金が循環することを望んでいます。交付金の目的として地元産業の支援という名目があるので、全市民を対象とした事業を実施するのは趣旨と異なるのではないのでしょうか。

クーポン券事業は、市民に対して支援を満遍なくするために市役所の中でも議論しながら決めました。コロナは本当に大変だったという点については、商売をやる人も消費者も同じなのでサービスが最も行き届く方法を選択させていただきました。



市長